



# 日本福祉大学附属高等学校同窓会会報 たちばな

## 会長挨拶

## ご挨拶



同窓会会長 小塚 光夫

同窓会会員のみなさまにおかれましては、全国各地でご活躍のこととおよこび申し上げますとともに、本会活動にご理解とご協力を賜り御礼申し上げます。

私どもの母校は昭和 33 年に名古屋杖中にて開校以来 56 年余を迎えました。その間二度の移転を余儀なくされながらも、卒業生は 13,500 名余を数え、何よりも今は知多奥田の地元ですっかりと根付いています。今日後輩の在校生たちが、勉学にスポーツにクラブ活動にと頑張っている

姿を見聞きする度に、先輩の一人として大変誇りに思っております。

私ども同窓会は、会員相互の親睦と母校の発展に寄与するために、卒業年度毎に幹事の方々に委任しています。その幹事を中心とする同期会やクラス会活動を援助支援し、同会活動をご理解頂くための広報活動として、会報「たちばな」を発行しております。同窓会費の納入が年々減少し、会員全員のお手元に届けられない状態が続いております。同窓会ではホームページの活用を推し進めていますので、ぜひ、ご高覧・ご活用ください。

また、我々をとりまく社会・経済情勢の不安定がこの上ない格差社会を拡大し、「子どもの貧困」が叫ばれてすでに数年がたちます。本会でも家計急変した在校生を対象とする「在校生特別奨学金事業」や推薦入学者を対象とする「入学検定料免除制度」、「卒業生の子ども・弟妹奨学生制度」の一端を担っています。こちらも是非ご活用下さい。

今後とも、本会事業にご協力ご参加頂けますようお願い申し上げます。

(9 回生・1968 年度卒)

## 2015 年度の主な事業のお知らせ

### 同窓会幹事会

日時 2015 年 5 月 30 日 (土) 13 時 30 分

場所 日本福祉大学附属高等学校

### 3 団体合同講演会

日時 2015 年 5 月 30 日 (土) 14 時 45 分

場所 日本福祉大学

講師 中西 哲生 氏 (スポーツジャーナリスト)

演題 「フィールドから見渡した世界」

### ゆりのき祭

日時 2015 年 9 月 20 日 (日)

内容 餅つき、模擬店、活動報告

■同窓会の皆様のご参加をお待ちしています。  
前日準備 (13:00 頃～) もぜひご協力ください!

## 同期会等開催費助成制度のご案内

本会の中心的活動の一つである卒業同期会等の開催を促進するために、【同期会等開催助成】をおこなっています。クラス会やサークル OB・OG 会の開催についてもこれを準用していますので、同期会等催される際にはご一報ください。

### 1 助成金の交付

幹事から申請のあった開催内容に基づいて、各年度一回に限り、次の金額を交付します。

- (1) 同期会の開催にあつては、10,000 円。
- (2) クラス会及びサークル OB・OG 会にあつては、3,000 円。

### 2 申請者

本部に登録された各卒業年度の幹事

### 3 申請手続きから助成金納入まで

①会長宛に別紙【同期会等助成申請書】を記入の上、申請してください。

なお、同期会・クラス会の開催にあたり宛名シール (同窓会名簿による) の発行を希望するときはその旨を申し出てください。

②本部より幹事宛に会費納入のお願い文書や宛名シール、パンフ等 (希望の場合) を送付します。

③同期会終了後、【所定の報告書】を提出してください。

また、宛名シール (同窓会名簿) と違う連絡先が判明した場合 (住所や氏名の変更) は、お知らせください。

④報告書確認後、申請時の銀行口座に助成金を振り込みます。

### 4 その他

(1) 申請は、当該年度に開催する同期会等を対象とします。

(2) 同窓会本部は、申請者 (幹事) に対し【同窓会費の納入のお願い】文書等を送付しますので、参加者への周知にご協力ください。

(3) 高校や学校法人が発行するパンフレット等を希望する場合は、その旨を申し出てください。

(4) 本部役員に出席の要請があるときはその旨申し出てください。常任幹事で調整します。

## 同窓会活動報告

- |   |   |
|---|---|
| <p>1 会務の運営強化</p> <p>2 委員会活動の強化推進</p> <p>3 会員・幹事等交流事業の実施</p> | <p>4 会員・ホームページを中心とする広報活動の実施</p> <p>5 在校生との交流・支援事業の実施</p> <p>6 母校並びに関係支援団体との連携強化</p> |
|---|---|

## ゆりのき祭報告

2014年9月28日、ゆりのき祭（日本福祉大学付属高校の文化祭）では、同窓会展示ブースの開設と餅の振る舞いを行いました。今年は、15名を超える運営メンバーで盛大に運営をすることができました。

特にゆりのき祭当日は、今年度同窓会に入会したOBの皆さんがたくさん集まって、同窓会ブースを盛り上げてくださいました。在校生の皆さんにも、例年以上に「同窓会」のPRをすることができました。

教室では、餅の振る舞いと付属高校の歴史や同窓会の活動を展示し、外のテントでは、実際に餅つきを行いました。学校の歴史や同窓会の活動の展示の前では、日本福祉大学付属高校トークに花を咲かせながら、様々な年齢層の交流を生み出すことができました。

さらに、付属高校の在校生だけでなく、その家族や卒業生も多数来校しており、これから入学を志す中学生の皆さんの高校への疑問や不安を解決する場にもなりました。

今後とも「日本福祉大学付属高校」という軸から横の繋がりだけでなく縦の繋がりも強くし、「同窓会」の活動を作り上げていきましょう。

少しでも「同窓会」に興味を持たれた方は事務局までお問い合わせください。

## 会計報告

2013年度同窓会会計決算  
(収入の部)

項目	2013年度 予算額	2013年度 決算額	備考
前年度繰入金	1,478,340	1,478,340	
入会金収入	710,000	700,000	入会金 (@5000 × 140名)
会費・寄付金収入	50,000	53,798	
利息収入	283	225	銀行利息 (普通預金のみ)
<b>合計</b>	<b>2,238,623</b>	<b>2,232,363</b>	

(支出の部)

項目	2013年度 予算額	2013年度 決算額	備考
事務費	100,000	733	*業務費
消耗品費	30,000	0	
印刷費	50,000	0	
通信費	10,000	108	
雑費	10,000	625	残高証明書手数料
会議費	250,000	63,155	*会議運営費 (通信費、会議費、交通費)
幹事会	60,000	23,100	1回
常任幹事会	90,000	40,055	6回
委員会	100,000	0	
事業費	1,273,000	781,448	*各事業運営費
文化講演会	200,000	98,809	三団体合同文化講演会負担分
会報発行	500,000	454,120	印刷費、発送作業費、発送料
交流企画	100,000	54,785	ゆりのき祭企画
ホームページ運営	250,000	0	委託費
特別給付奨学金	100,000	100,000	積立拠出
新会員記念品	71,000	63,472	卒業証書ファイル贈呈
同期会支援金	52,000	10,262	1977年度
備品費	0	0	パソコンリース料
予備費	615,623	0	
支出合計	2,238,623	845,336	
次年度繰越金		1,387,027	
<b>合計</b>	<b>2,238,623</b>	<b>2,232,363</b>	

2014年度同窓会会計予算  
(収入の部)

項目	2014年度 予算額	2013年度 予算額	備考
前年度繰入金	1,387,027	1,478,340	
入会金収入	880,000	710,000	入会金 (@5000 × 176名)
会費・寄付金収入	50,000	50,000	会費 (@1000 × 50名)
利息収入	225	283	銀行利息
<b>合計</b>	<b>2,317,252</b>	<b>2,238,623</b>	

(支出の部)

項目	2014年度 予算額	2013年度 予算額	備考
事務費	100,000	100,000	*業務費
消耗品費	30,000	30,000	
印刷費	50,000	50,000	
通信費	10,000	10,000	
アルバイト費	0	0	
雑費	10,000	10,000	残高証明書発行手数料、特別給付奨学金選考委員会旅費など
会議費	250,000	250,000	*会議運営費 (通信費、会議費、交通費)
幹事会	60,000	60,000	@60000 × 1回
常任幹事会	90,000	90,000	@15000 × 6回
委員会	100,000	100,000	各委員会
事業費	1,290,000	1,273,000	*各事業運営費
文化講演会	200,000	200,000	運営費負担分+懇親会負担分
会報発行	500,000	500,000	
交流企画	100,000	100,000	ゆりのき祭、役員との交流ほか
ホームページ運営	250,000	250,000	個別メンテナンス費
特別給付奨学金	100,000	100,000	積立金
新会員記念品	88,000	71,000	卒業証書ファイル寄贈 (@500 × 176名)
同期会支援金	52,000	52,000	5件見込み
備品費	0	0	
予備費	677,252	615,623	
支出合計	2,317,252	2,238,623	
<b>合計</b>	<b>2,317,252</b>	<b>2,238,623</b>	

同窓生のみなさん！年会費（1,000円）の納入、寄付にご協力ください。

ゆうちょ銀行
 金融機関コード：9900 店番：089 種目：当座 店名：〇八九店  
 口座番号：0169025 加入者名：日本福祉大学付属高等学校同窓会

## 2014年度 常任幹事会 役員名簿

役員	氏名	卒業年度(西暦)	役員	氏名	卒業年度(西暦)	役員	氏名	卒業年度(西暦)
会長	小塚 光夫	1968年度卒業	常任幹事	富岡 隆治	1983年度卒業	常任幹事	武田 颯	2011年度卒業
副会長	丸山 容子	1978年度卒業		吉村 和幸	1984年度卒業	監事	池田 修三	1962年度卒業
	吉村 和幸	1968年度卒業		新美 滋啓	1987年度卒業		堀場 純矢	1993年度卒業
会計	丸山 容子	1978年度卒業		半田こすも	2000年度卒業	顧問	丹羽 典彦	1960年度卒業
	迫田 真希	事務職員		江ノ上敦士	2001年度卒業		山口喜久枝	教頭
常任幹事	福岡 正之	1971年度卒業		古川 真帆	2005年度卒業		君田 竜一	事務長

### 役員紹介

下記3名が2014年5月31日に行われた幹事会で2014年度卒業生代表幹事として承認されました！  
野田将也さん、岩田唯さん、高橋克さん

回	生	卒業年度(和暦)	卒業年度(西暦)	1	2	3	4	5
1		昭和 35	1960	(佐藤 友彦)	*丹羽 典彦			
2		36	1961	桜井 敏寿				
3		37	1962	*池田 修三				
4		38	1963	(山東 克彦)				
5		39	1964	吉田 孝仁	水野 義広	水野 孝安		
9		43	1968	大久利一男	*小塚 光夫			
12		46	1971	河村 昇	*福岡 正之			
14		48	1973	山田 順子	青山 伸吉			
15		49	1974	水野 英子	古澤美代子			
17		51	1976	平瀬 哲則				
18		52	1977	中村 勝彦	鬼頭 和則	青山 智弘	高木 真澄	
19		53	1978	*丸山 容子	桂 佳男			
20		54	1979	高垣 充				
21		55	1980	寛 重和	菊地 淳子			
22		56	1981	岡本 吉治				
23		57	1982	川瀬 克幸	(渡辺 美雪)			
24		58	1983	福井 政浩	榊原 京子	樋口 吉己	*富岡 隆治	
25		59	1984	古川 裕資	大井智穂子	*吉村 和幸		
26		60	1985	福地 充洋				
27		61	1986	松田 洋幸				
28		62	1987	小林 純穂	*新美 滋啓			
29		63	1988	渡邊真理子				
30		平成元	1989	仲野 智	久田 里子			
31		2	1990	瀬尾 隆之	中野 ゆか			
32		3	1991	木俣 聖佳				
33		4	1992	富田 達郎	竹川 寅之			
34		5	1993	岩田佳奈子	西 将志	藤原 聡子	*堀場 純矢	
35		6	1994	白井 雅樹	(榎戸 幸子)			
36		7	1995	佐藤かおり	鶴長 泰輔			
37		8	1996	布目 達彦				
38		9	1997	尾之内 童	白石 優理	長谷川純子	宮川 鮎美	寺澤 由紀
39		10	1998	市村 美和				
40		11	1999	吉口 史晃				
41		12	2000	鶴飼 健史	御手洗 旭	*半田こすも		
42		13	2001	*江ノ上敦士	武田 恵子	廣瀬 美子		
43		14	2002	大久利勇輝	山崎由香里	佐々木諒真	榎本 千香	長坂 創太
				久野 達也	堀田 瑞樹	深谷 愛美		
				有馬 将太	今井 佐栄	神野 由貴	田島由佳子	山下さなえ
44		15	2003	野々垣聡子	鈴木 警史	小野 七絵	内田 愛	小川 友子
				宮澤 枝里	根崎 芳行	小牧 直哉	相羽 優香	小山 奈未
				深谷 典子				
45		16	2004	清水 大介	村上 辰之	山下 雄規	中平 猛	
46		17	2005	北浦 稔	塚田 康人	水谷佳那子	菊地 宏晃	渡辺 拓也
				舟橋 佑希	*古川 真帆			
47		18	2006	永田 悦子	生田 卓也	竹内 甫	大河内 恵	小島 祐助
				浜野 由莉				
48		19	2007	鶴見 匠	眞鍋智奈実			
49		20	2008	沖田 昌紀	椎葉 梢			
50		21	2009	竹内 航太	小田ひとみ			
51		22	2010	青山 聖恵	長屋亜矢子			
52		23	2011	*武田 颯	梶原 裕子	浅井真莉子		
53		24	2012	西保皓太郎	奥村 仁美	戸村 龍昇		
54		25	2013	野田 将也	岩田 唯	高橋 克		

\*:役員 ( ):世話人

## 同窓生の活躍

### ■ 平林 芳金さん（落語家）（1991 年度卒）

私は、平成 4 年 3 月、日本福祉大学付属高校を卒業しました。あれから 23 年、今、私は落語家をしております。立川談志の弟子で立川平林と申します。

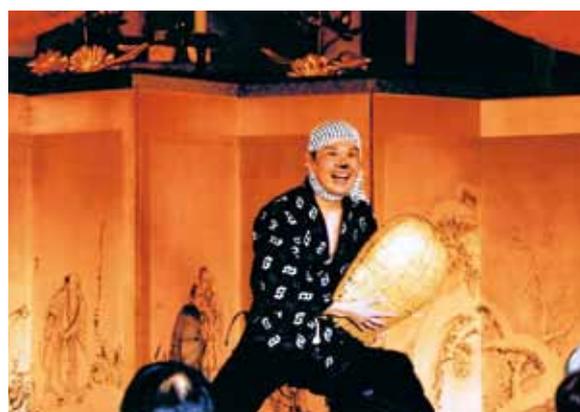
高校を卒業後、優秀な私は、河合塾へ進学。そして東京の大学へ入学しますが、お笑い芸人に憧れて大学を中退。アルバイトをしながらのライブ活動。そして、31 歳の春、立川談志に入門しました。

現在の私は、落語家の階級で言うところの、二つ目。まだまだ半人前の真打ちを目指して修業の毎日です。

そんな私ですが、3 年前、母校日福から落語のご依頼を頂きました。学校寄席のお声がかかったのです。私は、「落語家になって良かったなあ」と、感慨深くなりました。高校を卒業して 20 年が経っておりましたが、母校はずっと、私を見届けてくれていたのです。私のことを認めて頂けたのだと思ったら、とても嬉しくて、大きな自信になりました。とても大きな励みとなりました。

そして先日、平成 26 年度安来節全国優勝大会において、優勝いたしました。また、昨今、社会問題になっております、振り込め詐欺や悪質商法に遭わないための注意啓発の落語を積極的に演らせて頂いていることから、平成 26 年の 10 月に、警視庁より感謝状を頂きました。

芸人として生きていくには、己の感性を信じ、様々な芸を身に付けなければなりません。その過程は、決して楽しいことばかりではありません。しかし、自分のやりたいことを、やり続けることができるのは、やはり、優しく温かく、応援してくれ、見届けてくれる存在があるからに他なりません。進路に悩んでいたあの頃、多感な高校時代を、優しく暖かく、育ててくれた、恵まれた環境があったからこそ、今の私があるのだと確信しております。日本福祉大学付属高校で出会った全ての皆様に感謝。お世話になりました先生方へ感謝。有り難うございます。どうか、これからも見届けて下さい。そして、また学校寄席へ呼んで下さい。それを励みに精進します。日本一の落語家を目指して！



## ■ 村崎 正明さん（社会法人くすの木福祉事業障害福祉サービス事業所サポートくすの木）（1989 年度卒）

卒業して早くも 24 年の月日が経過しました。

高校時代は多くの友人に恵まれ、部活動や議長団等、色々と活動的だったと思います。

そうした活動の中で、ボランティア活動が、今の私の人生を方向付けました。

児童福祉施設や障害者福祉施設でのボランティア活動を重ね「福祉の仕事がしたい・人の役に立ちたい（社会貢献）」という思いが芽生えたのです。

高校卒業後は、同法人内の中央総合福祉専門学校（現：日本福祉大学中央福祉専門学校）介護福祉士科に入学。高校時代に積み上げた経験を生かし、ボランティア活動に没頭しました。

特別養護老人ホームに介護士として就職した 2 年後、「介護」＝「生活のお世話」という概念から「人の命を預かっている」という事に気付かされ転職。病院で働きながら准看護学校へ通いました。病院・高齢者施設での看護職を経て現在は、障害者福祉施設で仕事をしています。

趣味については、3 つの事に取り組んでいます。

1 つ目は、在住の市で災害ボランティアコーディネーターとして、防災活動をしています。毎月の会議に参加し、防災・減災への計画や勉強会、訓練をしています。

2 つ目は、陸上自衛隊予備自衛官をしています。保有する資格から衛生科に所属し、国の有事や大災害に備えて、県内外の陸上自衛隊駐屯地で招集訓練に応じています。

3 つ目は、日本赤十字社の活動です。赤十字救急法指導員、赤十字健康生活指導員資格を保有し、各種学校・企業・イベント等で、一次救命処置、病気・怪我の応急手当、高齢者介護や災害時の避難所生活等の講習指導をしています。赤十字活動は、仕事の休日を使い年間 40 日以上活動しています。また、4 年前の東北大震災では、日本赤十字社愛知県支部赤十字ボランティア要員として、発災後 3 週間目には現地（宮城県東松島市）での活動も経験しました。



この様に、私の仕事（福祉職）や趣味（社会貢献）は、本校在学中に芽生えた夢や目標そのもので、それを実現させた賜物です。

私の人生の原点、切っても切れない本校。

お世話になった先生方をはじめ、共に過ごした先輩、同級生、後輩には本当に感謝をしています。みんなに会いたいなあ…



## 2 人の子どもたちともう一度高校生活を送っています。

田中 綾（1987 年度卒 旧姓：鳥居）



今年の春、長男が日本福祉大学附属高校を卒業しました。2 つ年下の長女も附属高校の 2 年生、現在楽しく学校に通っています。

4 年前に何年ぶりにゆりのき祭に行ったことがきっかけとなり、2 人の子どもたちが「附属高校に入学して和太鼓に取り組みたい！」と決意、附属高校に入学することになりました。2 人の子どもたちは小さい頃から父親の影響で空手を習い、中学校では兄妹そろって 3 年間全国大会に出場できるまでになり、毎日が「空手中心」の生活を送っていました。そんな子どもたちは附属高校に入学後、生活が一転、空手から和太鼓中心の生活に変わりました。息子は高校一年生の折、空手でインターハイに出場し、和太鼓との両立

を目指しましたが、現実には厳しく、自ら和太鼓を選ぶ決心をしました。和太鼓部では部長も務め、全国大会や海外公演、被災地訪問など、先輩や良き仲間たちとすばらしい経験をする事ができました。名城大学生となった今は、附属高校で出会った先生を目標に、数学教師を目指して頑張っています。附属高校での 3 年間は息子の人生を大きく変え、たくましく成長する事ができました。

現在 2 年生の娘も兄に続けと和太鼓部に入り、将来の夢を叶えるべく頑張っています。私も子どもとともにたくさんのことを経験しています。成長していく子どもたちを見て、子どもたちをこの附属高校に行かせて本当に良かったと思っています。



## 高校の近況報告



### 付属高校昔・今・そして未来

校長 岩本 憲之

同窓生の皆様、ますますご健勝のこととおよこび申し上げます。

本学園は2013年、大学創立60周年、高校55周年を迎え、昨年6月、名古屋市内で盛大に記念式典が挙行されました。人間で言えば還暦ですが、これまでの決して平坦ではなかった学園の歴史を振り返ってみると感慨深いものがあります。

付属高校は1958年（昭和33年）、日本福祉大学付属立花高等学校として大学と同一校地（昭和区区中）に開校し、その後、同山里町に移転し、さらに学園総合移転計画のため1974年（昭和49年）八事裏山に仮移転（夏は暑く冬は寒いプレハブ校舎で生徒はよく耐えてくれました）。ようやく1982年（昭和57年）現在の校地に落ち着くことができました。それ以降、文字通り日本福祉大学の付属高校として、「高大青年期一貫教育」と銘打って、大学の先生方の講義を高校生が受講するなど、校名だけでなく教育内容においても連携や接続を強化しつつあります。校地や校名や制服は変わりましたが、建学の精神「万人の福祉のために真実と慈愛と献身を」を受け継ぎ、発展させようと、生徒諸君は日々頑張っています。

現在、高校では3つのコース（福祉社会・国際英語・文理）を設置して、生徒諸君の多様な進路要求に対応しています。また大府・刈谷・朝倉など5ルートでスクールバスを運行し、通学の便宜をはかっています。

今、高校で力を入れている事柄を紹介します。1点目は将来なりたい自分になるために、基礎学力をきちんとつけることです。そのため英数では少人数習熟度別授業を行い、ていねいなきめの細かい指導を心掛けています。またどの学年でも「キャリア開発」を時間割に組み込み、様々な職業の方をお招きして話を聞くなど、生き方や進路を考える機会を設けています。これには卒業生の方にも協力していただいています。その結果、進学実績も徐々に広がり始め、難関と言われる大学への合格も見られるようになりました。

2点目は部活動を一層強化・発展させることです。これまで本校は、とすると位置づけが弱かった面がありましたが、生徒諸君の学校生活の張り合いや充実に応えようと、強化を図りつつあります。後援会などから備品やユニフォーム代の援助も得て、数年前から部活動が活性化し始めました。ここ1～2年で、運動部では、陸上部やり投げインターハイ出場や、バレー部女子県大会出場、野球部では夏の大会初のコールド勝ち（長年の私の記憶にもありません）、サッカー部の数年ぶりの勝利など。文化部では和太鼓部全国大会連続出場や演劇部は県大会出場やそれに準ずるレベルを維持、吹奏楽部は地区大会で健闘など、まだ端緒的ではありますが、着実に力をつけてきています。

3点目はグローバル化する社会に対応するため、イギリスへの短期語学研修（夏期）やオーストラリア2カ月語学研修（3学期）を実施しています。毎年参加生徒は大きな刺激をもらって帰ります。大学主催のWorld Youth Meetingにも参加し、今年度は台湾の高校生とコラボし、英語とICTを活用してプレゼンを行いました。

今、私たち教職員はこれからの未来、付属高校をますます「進化」させたいと、6年間に亘る中期計画を検討しつつあります。その1つの例として、全面人工芝のサッカー場を今春には完成させます。すでにJリーガー経験を持つ教員を顧問に迎えました。また生徒諸君の一層の力をつけるため、必要なカリキュラムの変更を行うことを予定しています。これからも本校は漢字の「福祉」から、ひらがなの「ふくし」＝「ふつうのくらしのしあわせ」に役立つ人材を育成するために奮闘したいと思えます。卒業生の皆様のご支援をこれからもよろしくお願いいたします。

## 部活の活動状況

### 野球部

野球部員である前に本校の生徒であることをモットーとし、誰からも応援される野球部を目指しています。部員不足を感じさせないよう、真の野球好きたちが先輩たちの残してくれた「全力疾走」「練習は嘘をつかない」を合言葉に、ひたむきな努力姿勢で毎日基本練習を繰り返しています。毎年、多くの練習試合をこなす中で、技術力だけでなく体力、精神力も向上し、年々チーム力もアップしています。そして、今年度の夏の大会では、2回戦をコールド勝ちし、3回戦に進出しました。

3年生の引退後、1・2年生は部員11名、マネージャー3名の計14名となりましたが、真夏の練習、合宿を通してたくましくなりました。夏休みに行われた秋季リーグでは、力を出し切れず1次リーグ敗退となりましたが、9月に行われた全尾張大会では、1回戦、2回戦と勝ち進み、代表決定戦に進出しました。残念ながら敗退し、本大会に進出することはできませんでした。人数が少ない分、濃い練習ができますし、多くの試合に出ることができます。しかし、練習試合では、準備、運営をしなくてはなりません。部員の多い学校と比べ負担が増すのも事実です。部員を増やし、より元気なチーム作りをめざし、夏の大会において皆さんと校歌を1回でも多く大声で歌いたいと思います。応援よろしくお願いします。



### ボランティア部

このたびボランティア部は、愛知県高等学校文化連盟ボランティア専門部県大会、第2回「愛知県高校生ボランティア発表会」へ出場いたしました。自分たちの活動を発信するとともに、他校の活動内容からも学ぶことの多い場となりました。

ボランティア部は、1年9名、2年2名、3年5名、総数16名の部活動です。手話や点字の校内活動や、県大会では、2014年の取り組みから3つをとりあげ「地域と繋がるボランティア」と題して発表してきました。

一つ目は、美浜町のセルブ・アゼーリアとの新作ピザ開発の取り組みです。ボランティア部がとりくむ作業所バザーの発展として、2013年にセルブ・アゼーリアのキッチンカーでのピザの出張販売と一緒に取り組む活動をしました。2014年は、①新作のピザメニューをつくる、②利用者、施設職員、ボランティア部員とで販売を実施することを目標に、新作ピザ「3種のきのこ味噌チーズピザ」を開発、当日販売、完売ができました。

二つ目は、武豊町の子育て支援のNPO法人Smiley Dreamが主催する子育て支援イベント「武豊Mamaふえすた」での、託児や運営のボランティアの取り組みです。「高校生だって子育て支援」を合い言葉に活動しました。

三つ目は、半田の震災支援のNPO法人「ほほえみの会」が実施する、夏休みに陸前高田の小学生を招待してのワークショップでのボランティア活動です。全員津波経験者です。長島のプールや日間賀島でのドルフィンタッチのワークショップと一緒に活動するなかで、近くで話を聞いてあげることの大切さを学びました。

初めての参加でしたが、発表校9校中1位の成績をいただくことができました。地域とつながったボランティア活動は、まだ始まったばかりです。毎年「少しずつ成長がみられるボランティア活動」として、長い取り組みをしていきたいと考えています。



## 2014 年度在職教職員紹介

職	務	氏 名
校 長		岩本 憲之
教 頭		山口喜久枝

学 監	氏 名
	平野 征人

教 務 部 長	加 賀 敏 美
生活指導部長	竹内 智司
進路指導部長	伊藤 克之
渉 外 部 長	今田 和弘

1 学 年 主 任	近藤美穂子
2 学 年 主 任	青木 律子
3 学 年 主 任	松永 太志

氏 名	担当教科
青木 律子	英 語
荒谷 美佳	保健体育
石崎 撰	国 語
伊藤 克之	国 語
今田 和弘	地歴公民
岩橋由美子	養 護
岩本 憲之	英 語
鶴飼 建吾	保健体育
岡部 道宣	数 学
奥田 章子	英 語
加賀 敏美	数 学
神谷 貴史	保健体育
河合理恵子	理 科

氏 名	担当教科
川島 徳巳	理 科
君塚 磨	数 学
近藤美穂子	地歴公民
榊原 智穂	英 語
重藤 信夫	英 語
清木 敦史	理 科
竹内 智司	保健体育
武智 静香	保健体育
田中 理恵	英 語
夏目 大輔	理 科
樫 秋晴	数 学
長谷川友紀	英 語
半田こすも	国 語

氏 名	担当教科
坂野 由季	地歴公民
日高 幸浩	数 学
古澤 嘉一	国 語
松下 訓和	英 語
松永 太志	地歴公民
松久 直史	地歴公民
宮東 靖浩	理 科
三好 祐輔	数 学
向井 直紀	地歴公民
森 あゆみ	国 語
山口喜久枝	国 語
山田 育世	情 報

### ● 恩 師 は 今 ●



### アイ ラブ 知多半島

松久 直史

在職：1983年4月～  
2015年3月

私は、1983年4月、「学園総合移転」での大学移転と同時に知多半島美浜町にある日本福祉大学付属高校に赴任しました。(高校は、1年前に先行移転していました)。そして、2015年3月に、32年間の勤めを終え、65歳の定年退職になります。大阪の堺市に生まれ育ち、大学が北海道・札幌、最初の勤務地が東京(東京タワーの真下の高校)と都会育ちの私でしたが、初めて自然がいっぱいのこの知多半島に家を構え、生活を始めて感動することがたくさんありました。(知多半島で知っていたのは、「愛知用水」のことぐらいでした)。

その年の8月に東ヶ丘団地に今の家を購入し、ずっと住んでいます。(巽ヶ丘駅から知多奥田駅まで急行で約30分、名古屋まで約30分という便利な場所です)。最初はまだ団地も完成していなかったため、カエルの声がうるさく聞こえてきたのを覚えています。「巨峰」というすばらしくおいしい大きなブドウも初めて知りました。梨もおいしかったです。そして、何といても魚がおいしかったです。これらは、今も変わらない知多半島の魅力です。東浦町で東光FCに出会ったことも大きな出来事でした。4人の子もたち全員、サッカーが大好きになりました。

今年教師生活の最後の1年を担任として過ごしています。「毎日1D通信」を出しながら、日本福祉大学付属高校の教育をじっくりと味わっています。年寄にはちょっと大変ですが、学年の先生方に助けてもらいながら、やはり担任が一番おもしろいと思っています。最後の年ということで、同窓会を卒業生たちが開いてくれていますが、日本福祉大学付属高校の教育、生徒との関わりは、他の学校とは違い、様々な教育活動の中で思い出の深いものと痛感しています。時代が変わっても、生徒と生徒の自主活動を大切にす本校の良さがずっと大事にされることを祈っています。

付属高校での32年間は、私の家族の成長の32年間でもありました。4男が今年の4月から一般企業に勤めることが決まり、これで4人の息子たちすべてを自立させることができました。付属高校は私の子どもたちにとっても、成長の場でした。校庭でバツとり走り回り、サッカー部の試合も文化祭も毎回楽しみにしていました。その中で自然と教育に目が行き、2人が教師になりました。また、2人が日本福祉大学を卒業し、そのうち1人が中央福祉専門学校で福祉を学び、今介護職員としてがんばっています。

1995年に日本福祉大学の半田キャンパスができ、今年2015年4月から東海キャンパスが開設されます。これで、知多半島全域が学園の本当の地元エリアになります。定年退職で学校は去りますが、付属高校と知多半島は、私の第2の人生にとっても素晴らしいものであり続けると思います。

☆セントレア(中部国際空港)は修学旅行、語学研修など、まるで私たちのために作られた空港のようです。「日本福祉大学は、セントレアから一番近い大学です」(セントレアのごみ箱には日本福祉大学の名前が入っています)。

日本福祉大学附属高等学校 同窓会

〒470-3233 愛知県知多郡美浜町奥田字中之谷2-1  
TEL (0569) 87-2311 FAX (0569) 87-2312

#### 同窓会報について

同窓会報「たちばな」はPDF版でホームページに掲載しています。バックナンバー、最新号とも同窓会ホームページでお楽しみください。

<http://www.netnfu.ne.jp/koko-dosokai/>